

朝鮮半島出身旧軍人・軍属及び旧民間徴用者等の
遺骨の問題に関する第4回日韓協議（概要）

平成18年7月
外務省

6月29日から30日まで、当省にて行われた第4回日韓協議の概要以下のとおり（日本側から、内閣官房、外務省、厚生労働省、文化庁等が出席。韓国側から、日帝強占下強制労働被害真相糾明委員会、在京韓国大使館等が出席。）。

1. 旧民間徴用者等の遺骨の実態調査

日本側より、昨年9月の第2回協議以降、新たに得られた遺骨の所在に関する情報につき、以下のとおり説明。

(1) 地方公共団体に対する調査

計786体分の遺骨の所在情報が寄せられた。

(2) 宗教団体に対する調査

計15体分の遺骨の所在情報が寄せられた。

(3) 民間企業に対する調査

新たな遺骨の所在情報の提供はなかったが、朝鮮半島出身者を雇用していたことを示す情報の提供があった。

(4) この結果、現時点で所在情報が判明している遺骨の総数は、1,669体となった。内訳は、地方公共団体より1,507体、民間企業より147体、宗教法人より15体。

（参考）昨年9月の第2回協議時点では、地方公共団体より721体、民間企業等より147体、計868体の遺骨の所在情報が寄せられていた。

2. 旧民間徴用者等の遺骨の実地調査

できるだけ早期に第1回目の日韓共同調査を実施することで意見の一一致をみた。

3. 祐天寺に保管されている旧軍人・軍属等の遺骨の返還

遺族が確認された遺骨につき、遺族の意向を尊重しつつ、可能な限り早期に返還する方向で、日韓双方が作業を加速化することとした。

4. 韓国人犠牲者遺族による海外激戦地追悼巡礼

遺族の意向を尊重しつつ、年内の開始に向け協力することを確認した。

5. 遺骨調査事業への韓国政府関係者のオブザーバー参加

本年夏に、韓国政府関係者参加の下、遺骨調査を実施することで意見の一一致をみた。

6. 次回協議

9月に東京にて開催することとし、具体的日程は外交ルートで調整することとなつた。
(了)